

月刊 ととろ



独立行政法人国立病院機構
いわき病院

第198号

令和2年10月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

信条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します

還暦を祝う会

令和2年10月8日(木)、重症心身障がい(児)者病棟にて「平成2年度還暦を祝う会」を執り行いました。今年度還暦を迎えた方は、渡邊一二三さんと吉田吉次さんです。お二人が無事60歳を迎えたことを心からお祝い申し上げます。また、今日を迎えるまで何かとご苦労されたご家族の皆さまにも心から敬意を表します。

祝う会は、証書の授与や祝辞、記念品や花束贈呈、ご家族からのお祝いのメッセージ、鏡割りなどできるだけ例年通りの内容で実施しました。しかし、例年親の会役員の皆さまにご臨席頂き、病棟の患者さんと共に楽しくお祝いをしておりましたが、今年度はコロナ禍での行事であるため、患者さんは主賓と花束贈呈者合わせて4名の参加で、ご家族は3名のみでの参加となりました。また、親の会会長の富岡さまからビデオメッセージによるお祝いの言葉を頂戴しました。そして、いつも療育棟で賑やかに行事や療育活動を行っておりますが、今回初めて会議室を会場に使用し、厳かな雰囲気で行うことができました。

古い話になりますが、私が職に就いた頃は、重い障がいのある方では長生きできる方は少ないという話を聞いたことがあります。しかし、現在は一般的に平均寿命が延びていると同時に、重い障がいをお持ちの方も70歳過ぎても元気に過ごされている方がたくさんおられます。これは、医学の進歩はもちろんですが、生活環境も整い、栄養管理、介護技術や介護用品の進歩、福祉制度の充実など様々な要因が考えられます。お二人にはこれからも元気に過ごして頂くよう願っております。

この度、人生の節目となる行事を担当させて頂き、重い障がいをお持ちの患者さんの療養生活を担う者として、患者さんには生かされた人生ではなく、生きている実感を持って頂くことが大切であり、その積み重ねによって築かれる人生であって欲しいと改めて思いました。今後も、患者さん一人一人が充実した人生となるよう支援に努めてまいります。

療育指導室 児童指導員：高橋 忠明



還暦者 第1病棟
渡辺一二三さん

還暦者 第1病棟
吉田吉次さん



記念撮影



鏡開き

看護学生の実習を受け入れています！！

いわき病院では、毎年、看護学生の実習を受け入れています。

今年は、コロナの影響で実習自体がどうなるかというところでしたが、医療創生大学側と病院側での話し合いを行い、7月末から1病棟に小児実習、2、3病棟には成人看護学実習を受け入れています。実習前の体温・体調チェックを行い、患者さんとの直接的な関わりはせず、ソーシャルディスタンス（1m以上）をとること、見学のみの実習となること、時間は午前中だけの短縮時間になりました。

これまでの実習では、患者さんとのコミュニケーションや五感を通じた関わりなどから、良い関係性を築いていくことが学びのひとつでした。このような状況で、患者さんからどのように学びを深められるのか、どのように指導をしていったら良いのか不安でした。

指導者は、学生が患者さんをしっかり捉えられるように、入院までの経過から入院中、現在に至るまでを要点を絞ってわかりやすく話し、個別性に合わせたケアや処置など見学し、なぜ必要なのか、行っている看護の根拠などを説明しました。学生さんが気付けるような質問を投げかけながら指導を行いました。制限が多い分、学生さんもちよとしたことも逃さず学びに繋げようという姿勢で実習に望んでいたようです。見学のみの実習でも、患者さんの表情や文字盤やパソコンを利用した非言語的なコミュニケーションを通して、個別性や気持ちが理解できていました。患者さんも間接的な関わりではありましたが、学生さんが来ることを楽しみにしていました。

医療創生大学の就職説明会では、実習した学生さんが、いわき病院での実習が楽しかったこと、優しく指導してもらったことなどを話してくれました。私達にとっても、とても嬉しい報告であり、今後の実習指導の励みとなっています。

これからの実習に対しても、よりよい実習指導を継続していきたいと思います。また近い将来、共に看護を実践する仲間となることを願っています。

第2病棟 看護師長：佐藤 美恵子



「コロナ禍における 作業療法実習を経て」

今回9月7日から10月2日にかけて4年生最後の実習を担当させて頂きました。新型コロナウイルス感染症によって、医療関係者に対する臨床実習も大きな影響を受けてしまいました。本来リハビリテーションにおける臨床実習は教科書など机上での知識を実際の臨床現場へ繋げていく重要な過程であると位置付けられています。今回は8週間かけて行う実習も4週間のみ臨床実習を行い、残りを学内で行うという変則的な実習でした。そのため実習の内容・課題も効率的に実施していく必要があり、短い期間内でどのように指導すべきか、スケジュールや指導方法を検討していきました。また実習生を受け入れるにあたり、院内感染対策マニュアルと養成校の指針を併せ「リハビリテーション科での臨床実習の感染対策マニュアル」を作成し、実習開始2週間前と実習中の健康観察と行動調査を行い、実習開始から2週間経過した後に必要な評価や実技ができるよう、患者さんの安全を考慮しながら進めてまいりました。

指導者も実習生が患者さんに「触れる」ことが制限されているぶん言葉で伝える難しさを感じながら、試行錯誤し、患者さんの生活を支援するリハビリテーションの魅力や役割を伝えられるよう工夫しているところです。コロナ禍の実習であるからこそ患者さんに関われる事に感謝しながら励んでいって欲しいと思います。

リハビリテーション科

一般作業療法主任：渡辺 雄紀

作業療法士：矢吹 宗弘



実習生からの一言

職員の方々がとても親切であり、熱心に指導して下さったため、とても充実した4週間を過ごすことができました。また、患者様も快く見学を受け入れてくださり、様々な場面を見学し、学びを深めることができました。いわき病院で実習を行うことができ、本当に良かったです。

東北福祉大学 4年：先崎 涼華



NHO PRESS ~国立病院機構通信~

いわき病院は、全国 141 病院からなる国立病院機構 (NHO: National Hospital Organization) のひとつです。

NHO では各病院の活動を紹介する『NHO PRESS』を発行しています。

外来待合室などに設置しています。ぜひご覧になってください。

国立病院機構ホームページでは最新号と過去の『NHO PRESS』を掲載しています。

NHO PRESS

検索

いわき病院の診療体制等について

- 診療科目 内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、小児科 (小児神経疾患)、リハビリテーション科
- 外来受付 8:30~11:30 (ただし、急患につきましては電話にてご相談下さい。)
- 診療時間 8:30~17:15

外来担当医師診療日程表 【平成31年4月~】

区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	内科 診察室① 鈴木 診察室② 市原	診察室① 無量井(第2)	診察室① 鈴木 診察室② 齋		診察室③ 仙台医療センター
	脳神経内科 診察室③ 尾田宣仁	診察室③ 會田隆志	診察室③ 尾田宣仁	診察室① 関/會田 (交代制)	診察室① 関 晴朗
	外科			診察室② 田崎 博	
脳神経内科専門外来 (予約制)					
午後	神経難病 神経筋疾患 《診察室①》		(脳神経内科) 関 晴朗		
小児神経外来 (予約制)					
午後	小児神経外来 (小児科) 《診察室①》 柳沢俊郎				(小児科) 柳沢俊郎



お知らせ

◆患者相談窓口

患者さんやお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談窓口』と『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

◆当院受診について

他の医療機関に通院中の方は、主治医の先生に当院地域医療連携室を通して診療予約をとって頂いた上で来院願います。



発行元 **独立行政法人国立病院機構 いわき病院**
 National Hospital Organization Iwaki National Hospital
 責任者 院長 関 晴朗
 新所在地 〒971-8126 福島県いわき市小名浜野田字八合 88 番地 1
 TEL 0246-88-7101 FAX 0246-88-7075
 ホームページ <https://iwaki.hosp.go.jp/>